

歴史を彩るひとびと

—近世岡山の文化—

—平成10年度 特別展の開催にあたって—

館長 平 岩 武

瀬戸内の温暖な気候、風土に恵まれた岡山県は、古来多くの人材を生み出し、育んできました。政治や文化などさまざまな分野で活躍し、わが国の歴史にその名を残す人もあり、また、岡山に住み、地道な活動を通じて郷土の文化の向上に尽くした人もいます。

岡山県立博物館では、昭和46年の開館以来、4半世紀にわたる日常の展示活動のなかでこうした人々の紹介、顕彰に努めてきましたが、平成8年度から「歴史を彩るひとびと」と題して、これまでの集大成ともいべき展示を3年計画で実施しております。初年度には「岡山の古代・中世」、昨年度は「岡山の名門と家臣たち」を取り上げましたが、今年度は江戸時代の学問・教育・芸術・宗教などの分野で活躍した人々を取り上げ、関係資料の展示を通じてその業績や人となりを紹介することにいたしました。もちろん、今回紹介する人々のほかにも多くの人々がおられ、また彼らの活動を支えた人々もいたわけですが、会場や資料の制約上、見送らざるをえません。それらの人々については来年度以降の展示の中で、できる限り紹介していきたいと思っております。

この展示会が岡山、さらには日本の文化の

向上に深くかかわった人々の歩みを振り返り、ひいては郷土岡山を見直す機会になれば幸いです。最後になりましたが、この展示会への出品を快くご承諾いただきました所蔵者の方々、ご協力賜りました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

岡山県立博物館平成10年度特別展
歴史を彩るひとびと
—近世岡山の文化—

公開期間 10月24日(土)～11月23日(月)
開館時間 9時30分～17時(土・日・休日は16時)
休館日 11月4日(土)～9日(木)、16日(日)

料金
大人600円・高校生400円・小学生300円
小人200円(小学生以下)

特別展委員会
「緒方洪庵と難波徳庵」
講師 岡山大学名誉教授 中山 沃氏
日時 10月31日(土) 13時30分～15時
場所 岡山県立博物館 講堂(観覧無料)

岡山県立博物館 〒703-8257 岡山市東区東1-5 TEL (086) 272-1149

平成10年度特別展 「歴史を彩るひとびと —近世岡山の文化—」

平成10年10月24日（土）～11月23日（月）

岡山県立博物館では、平成8年度から3年計画で「歴史を彩るひとびと」と題し、岡山ゆかりの歴史上の人物を紹介する特別展を実施している。最終年度の今年度は、江戸時代に学問・教育・文化などの分野で活躍した人々を紹介する。

1. 儒学者・漢学者・漢詩人

江戸時代の学問の風潮は儒学が中心であり、特に朱子学が重んぜられたが、古学、陽明学などの儒学の諸派も盛んであった。これら各派の儒学者はまた漢籍に通じた漢学者でもあった。今年度は江戸時代後期に活躍した備中鴨方（現鴨方町）の朱子学者西山拙斎をはじめ、新見藩の儒者丸川松陰、小田郡吉浜村（現笠岡市）の出身で福山藩の儒者として仕えた関藤藤陰、都宇郡山地村（現倉敷市）に三余塾を開いて犬養毅等の逸材を育てた犬飼松窓、後月郡西江原村（現井原市）の郷学興讓館の館祖阪谷朗廬、閑谷学校の教授武元君立等の儒学者・漢学者、及び漢詩人・書家として著名な君立の兄武元登々庵を紹介する。

2. 国学者・歌人・俳人

国学は江戸時代中期に加茂真淵・本居宣長によって体系化された学問であるが、宣長の高弟で吉備津神社の神官であった藤井高尚と北島神社（邑久町）の神官で高尚の門人であった業合大枝、笠岡の郷学敬学館の教授小寺清先・清之父子等の国学者を紹介する。また万葉歌人で史家としても知られる平賀元義をはじめ、京都に出て活躍した玉島出身の歌人澄月、女流歌人の松原三穂子、岡山の俳人佐々木松後等を紹介する。



寂巖法印像 倉敷市 宝島寺

3. 宗教家

中世に多彩な人材を輩出した宗教界では、江戸時代になると、幕府・諸藩の厳しい統制によって沈滞を余儀なくされた。しかし、そうしたなかで着実な活動を続けた宗教家もいた。この特別展では日本の梵語研究の第一人者であった宝島寺（倉敷市）住職寂巖、『続日本高僧伝』を著した円通寺（鏡野町）住職竺道契、円通寺（倉敷市）住職国仙とその高弟良寛及び江戸時代後期の幕藩体制の動揺を背景とした社会不安のなかで人々の救済を説いた黒住宗忠、金光大神を紹介する。

4. 医学者

オランダ医学を修めた者を蘭方医といい、伝統的な医術による者を漢方医と呼ぶが、前者を代表する人物として足守（岡山市）出身の緒方洪庵とその門人、後者では金川（御津町）の難波抱節とその門人を紹介する。大坂有数の蘭方医であった洪庵は適塾（適々斎塾）という私塾を開いて、多くの門人を養成した教育者でもあった。門人のなかには備中出身の緒方郁藏、山田貞順、美作出身の石井信義、備前出身の島村鼎甫、閑谷学校出身の大鳥圭介等がいる。抱節は金川で開業し、地域の医療に尽くすとともに思誠堂塾を開いて全国各地から集まった門人の教育にも努めた。抱節は蘭方医学にも通じており、足守で種痘を行った洪庵から種法と痘苗を授けられ、種痘の普及にもあたった。また、長崎の鳴滝塾で



緒方洪庵画像 個人

シーボルトに学んだ真島郡旦土村(現落合町)出身の石井宗謙、宗謙と親交のあった窪屋郡三須村(現総社市)の杉生革斎とその門人山田成器等も紹介する。

5. 洋学者

洋学は江戸時代に研究された西洋諸国の学術・文化・技術のことである。初期にはオランダ語を介して移植されたため蘭学とよばれた。この分野では岡山から多彩な人材が輩出したが、特に津山藩は日本の洋学研究の中心であり、多くの洋学者を輩出した。それらの洋学者のうち、宇田川玄随・玄真・榕庵、箕作阮甫等を取り上げ、その事績を紹介する。

6. 事業家

岡山は古くから塩・鉄の産地として知られるが、江戸時代後期に100町歩を越える大規模な塩田を開発し、塩田王と呼ばれた児島の野崎武左衛門、真庭郡で大規模な鉄山を経営した徳山敬猛、鉄山経営と牛の品種改良に努めた千屋(新見市)の太田辰五郎、岡山城下の豪商で蔵書家でもあった河本立軒等の事績を紹介する。

7. 歴史・地理学者

江戸時代には儒学の影響で歴史学・地理学についても実証的研究が重んじられ、多くの著作がなされた。この特別展では、実証主義を貫いた地理学者として著名な古川古松軒、歴史研究の他に詩文・絵画にも秀でた岡山藩

士斎藤一興を紹介する。

8. 画家

室町時代に画聖雪舟を生んだ岡山からは、江戸時代にも優れた画家を輩出した。そうした画家のなかから津山藩士で儒学者でもあった広瀬台山、鴨方藩士で、のち脱藩して漂泊後、京都に落ち着き、中国・日本の南画に類のない新様式を作り出した浦上玉堂とその子春琴・秋琴、讃岐(香川県)の出身で玉島に定住し、鴨方の儒学者西山拙斎、備後の儒学者菅茶山等とも親交を結び、備中・備前に南画趣味を広めるとともに多くの門人を育てた黒田綾山と門人の岡本豊彦・小野雲鵬等について、その作品を中心に紹介する。

9. 工芸家

備前刀を生んだ岡山では、その技術を受け継いだ人々が様々な工芸品を遺した。ここでは日本唯一人の女刀工国重源、金工家として著名な正阿弥勝義、刀剣や木竹工芸等にその才を発揮した逸見東洋のほか、蠟石彫刻に優れた作品を遺した八木浄慶などを紹介する。

10. 和算家

和算とは江戸時代に発達した日本独自の数学で、岡山でも普及し多くの和算家を輩出した。この特別展で紹介する小野光右衛門は庄屋として村政にあたる傍ら、和算・天文・暦学を修め、多くの門人を育てた人物である。



野崎武左衛門画像 野崎家塩業歴史館

主な展示資料

1. 儒学者・漢学者・漢詩人

関藤藤陰画像 笠岡市立金浦小学校
丸川松陰書幅 新見美術館
犬飼松窓画像 個人
阪谷朗廬書幅 興讓館高等学校
武元登々庵画像 吉永町美術館
武元君立画像 吉永町美術館

2. 国学者・歌人・俳人

藤井高尚画像 個人
松原三穂子和歌 個人
井上素堂画像 個人
澄月和歌 倉敷市 清瀧寺
小野務画像 個人
佐々木松後画像 個人

3. 宗教家

寂巖法印像 倉敷市 宝島寺
良寛七言絶句 東京国立博物館
竺道契画像 鏡野町 円通寺
黒住宗忠真影 黒住教本部
金光大神天地書附 金光図書館

4. 医学者

緒方洪庵画像 個人
緒方洪庵所用薬箱 適塾記念会
ゾーフ・ハルマ 大阪大学附属図書館
緒方洪庵書状 個人
杉生革斎画像 個人
難波抱節書幅 個人
散花新書 労働科学研究所

5. 洋学者

宇田川玄随肖像并識語 岡山県立博物館
おらんだかるた 津山洋学資料館
杉田玄白書簡 小林令助宛 個人
解體新書 個人
泰西名医彙講 岡山大学附属図書館鹿田分館

6. 事業家

刀 大慶直胤 個人
野崎武左衛門画像 野崎家塩業歴史館

徳山敬猛画像 個人
河本立軒画像 岡山市立中央図書館
彩色備前玉香盆 岡山県立博物館

7. 歴史・地理学者

古川古松軒神文 個人
東都以東十五勝図巻 東京国立博物館
近世名家肖像図巻 東京国立博物館
斎藤一興筆「蒼松山水図」 岡山市 国清寺

8. 画家

広瀬台山筆「米法雨霽山水図」 岡山県立博物館
浦上玉堂画像 春琴筆 林原美術館
玉堂製琴 備前市 正宗文庫
浦上玉堂筆「南村訪雪図」 岡山県立博物館
黒田綾山筆「古石長椿図」 岡山県立博物館

9. 工芸家

正阿弥勝義画像 林原美術館
正阿弥勝義作「蝶耳菊花瓶」 個人
女刀工国重源鍛刀図 個人
八木浄慶画像 個人
八木浄慶作「金剛界大日如来」 備前市 真光寺

10. 和算家

小野光右衛門画像 岡山県立博物館
『啓迪算法指南大成』原稿 日本学士院
小野光右衛門所用測量道具 金光図書館

記念講演会（聴講無料）

日時：10月31日（土） 13：30～15：00
場所：岡山県立博物館講堂
講師：岡山大学名誉教授 中山沃氏
演題：「緒方洪庵と難波抱節」

岡山県立博物館だより No.50

発行日 平成10年10月1日
発行 岡山県立博物館
館長 平岩 武
岡山市後楽園1-5
☎(086)272-1149